

## 学会発表一覧（2005年度以降）

### 2010年度

(1) 有機触媒と金属触媒を用いた協奏的触媒反応の開発：内部アルキンを有するプロパルギルアルコールとアルデヒドとのエナンチオ選択的プロパルギル位アルキル化反応、本山和樹・池田将啓・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第91春季年会（東京）、2011年3月26日～29日

(2) 遷移金属触媒による協奏的不斉合成反応：銅触媒及びルテニウム触媒を用いたエナンチオ選択的プロパルギル位アルキル化反応、池田将啓・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第91春季年会（東京）、2011年3月26日～29日

(3) 温和な反応条件下での触媒的窒素固定法の開発：PNP型ピンサー配位子を持つ二核モリブデン窒素錯体の合成と置換基効果、栗山翔吾・荒芝和也・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第91春季年会（東京）、2011年3月26日～29日

(4) モリブデンとジルコノセンからなる異種金属二核錯体の合成と反応性、宮崎貴匡・田邊資明・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第91春季年会（東京）、2011年3月26日～29日

(5) 8族金属と4族メタロセンからなる異種金属二核錯体を用いたアミンボラン類の触媒的脱水素反応と反応機構の検証、宮崎貴匡・田邊資明・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第91春季年会（東京）、2011年3月26日～29日

(6) 銅触媒を用いたエナンチオ選択的プロパルギル位アミノ化反応、吉田晶子・服部岳・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第91春季年会（東京）、2011年3月26日～29日

(7) チオラート架橋二核鉄及びルテニウム錯体の合成とヒドラジンの触媒的還元反応への応用、結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第91春季年会（東京）、2011年3月26日～29日

(8) 有機触媒及び金属触媒を用いた協奏的触媒反応の開発：内部アルキンを有するプロパルギルアルコールとアルデヒドとのエナンチオ選択的プロパルギル位アルキル化反応、本山和樹・池田将啓・三宅由寛・西林仁昭、第37回有機典型元素化学討論会（室蘭）、2010年11月25日～27日

(9) 複数の金属を利用した革新的分子変換反応の開発を目指して(招待講演)、西林仁昭、第38回オルガノメタリックセミナー 有機金属錯体触媒：こんな反応見つけてみたい（触媒学会有機金属研究会主催）、2010年11月22日

(10) 有機触媒及び遷移金属触媒による協奏的不斉合成反応：エナンチオ選択的プロパルギル位アルキル化反応、池田将啓・三宅由寛・西林仁昭、第98回有機合成シンポジウム（東京）、2010年11月5日～6日

(11) Ruthenium-Catalyzed Novel Transformations via Ruthenium-Allenylidene Complexes (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, IUPAC 6th International Symposium on Novel Materials and their Synthesis (NMS-VI) & 20<sup>th</sup> International Symposium

on Fine Chemistry and Functional Polymers (FCFP-XX) (China), October 13, 2010.

(12) Theoretical study on the catalytic conversion of dinitrogen by a molybdenum complex bearing ferrocenyldiphosphines, Hiromasa Tanaka, Akira Sasada, Tomohisa Kono, Masahiro Yuki, Yoshihiro Miyake, Yoshiaki Nishibayashi, Kazunari Yoshizawa, 第60回錯体化学討論会 (大阪) 60th Anniversary Conference on Coordination Chemistry in Osaka, 2010年9月27日~30日

(13) ホスフィン-ビス (チオラート) 三座配位子を有するルテニウム-ルテニウム及び鉄-ルテニウム錯体の合成と反応性, 結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭, 第60回錯体化学討論会 (大阪), 2010年9月27日~30日

(14) 有機触媒及び遷移金属触媒による協奏的不斉合成反応: エナンチオ選択的プロパルギル位アルキル化反応, 池田将啓・三宅由寛・西林仁昭, 第57回有機金属化学討論会 (東京), 2010年9月16日~18日

(15) 光学活性ルテニウムアレニリデン錯体における分子内edge-to-face相互作用によるエナンチオ選択的プロパルギル位置換反応の制御, 田辺資明・金尾啓一郎・三宅由寛・西林仁昭, 第57回有機金属化学討論会 (東京), 2010年9月16日~18日

(16) 温和な反応条件下での窒素固定法の開発: モリブデン錯体を用いた常温常圧下での窒素分子からのアンモニア合成, 荒芝和也・三宅由寛・西林仁昭, 第57回有機金属化学討論会 (東京), 2010年9月16日~18日

(17) モリブデン-鉄錯体を用いた窒素固定に関する理論的研究, 田中宏昌・笹田瑛・向野智久・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭・吉澤一成, 第106回触媒討論会 (触媒学会主催), 2010年9月15-18日

(18) 銅触媒によるプロパルギル位アミノ化反応に関する量子化学的研究, 坂田健・服部岳・三宅由寛・西林仁昭, 第4回分子科学討論会 (分子科学会主催), 2010年9月14-17日

(19) 銅触媒によるプロパルギル位アミノ化反応に関する量子化学的研究, 坂田健・服部岳・三宅由寛・西林仁昭, シンポジウム「電子状態理論の新機軸」, 2010年8月9-10日

(20) Synthesis and Reactivity of Hybrid Phosphido- and Hydrosulfido-bridged Diruthenium Complex, Taichi Moriyama; Satoshi Endo; Yoshiaki Tanabe; Yoshihiro Miyake; Yoshiaki Nishibayashi, The 24th International Conference on Organometallic Chemistry (Taiwan), July 18-23, 2010.

(21) Synthesis of Ruthenium-Group IV Metal Heterobimetallic Complexes; Application to Catalytic Dehydrogenation of Ammonia Borane, Takamasa Miyazaki; Yoshiaki Tanabe; Kazuya Arashiba; Masahiro Yuki; Yoshihiro Miyake; Yoshiaki Nishibayashi, The 24th International Conference on Organometallic Chemistry (Taiwan), July 18-23, 2010.

(22) Observation of Intramolecular Edge-to-face Atomic  $\pi-\pi$  Interaction in An

Optically Active Ruthenium--Allenylidene Complex, Yoshiaki Tanabe; Keiichiro Kanao; Yoshihiro Miyake; Yoshiaki Nishibayashi, The 24th International Conference on Organometallic Chemistry (Taiwan), July 18-23, 2010.

(23) Synthesis of Palladium and Platinum Complexes Incorporated with Viologen-like Electron Accepting Skeleton, Kazunari Nakajima; Yu Higuchi; Yoshihiro Miyake; Yoshiaki Nishibayashi, The 24th International Conference on Organometallic Chemistry (Taiwan), July 18-23, 2010.

(24) Synthesis and Reactivity of Diruthenium and Iron-ruthenium Complexes Derived from Bis(Thiolate) Metalloligand, Masahiro Yuki; Yoshihiro Miyake; Yoshiaki Nishibayashi, The 24th International Conference on Organometallic Chemistry (Taiwan), July 18-23, 2010.

(25) Cooperative Catalytic Reactions Using Organocatalysts and Transition Metal Catalysts: Enantioselective Propargylic Alkylation, Masahiro Ikeda; Yoshihiro Miyake; Yoshiaki Nishibayashi, The 24th International Conference on Organometallic Chemistry (Taiwan), July 18-23, 2010.

(26) 複数の金属を利用した革新的分子変換反応の開発を目指して (招待講演)、西林仁昭、総合物質創製化学推進事業第1回若手研究会 (総合物質創製化学推進事業主催)、2010年6月11日

(27) Ruthenium-Catalyzed Novel Transformation via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, 6th Asian-European Symposium on Metal Mediated Efficient Reactions (Singapore), June 7-9, 2010.

(28) フェロセニルジホスフィン配位子をもつモリブデン錯体を用いた窒素分子変換反応に関する理論的研究、田中宏昌・笹田瑛・向野智久・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭・吉澤一成、第13回理論化学討論会 (理論化学研究会主催)、2010年5月23-25日

## 2009年度

(1) 温和な反応条件下での触媒的窒素固定法の開発：モリブデン錯体を用いた窒素分子のアンモニアへと触媒的還元反応、荒芝和也・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(2) ピンサー配位子を有する5族及び6族遷移金属錯体の合成と反応性、佐々木晃逸・荒芝和也・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(3) 有機触媒及び遷移金属触媒による協奏的不斉合成反応：有機触媒及びルテニウム触媒を用いたエンアチオ選択的プロパルギル位置換反応、池田将啓・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(4) 有機触媒及び遷移金属触媒による協奏的不斉合成反応：有機触媒及び銅触媒を用いたエンアチオ選択的プロパルギル位置換反応、吉田晶子・池田将啓・服部岳・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(5) 銅触媒によるプロパルギルアセテートと(E)-2,4-ペンタジエニルアミンとのエンアチオ及びジアステロ選択的連続不斉反応、服部岳・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(6) ルテニウムと4族メタロセンからなる異種金属二核錯体の合成と反応性、宮崎貴匡・田邊資明・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(7) 4位を官能基化したピリジン骨格を有するPNPピンサー配位子の合成と錯形成能、中島一成・樋口悠・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(8) ホスフィド-ヒドロスルフィド架橋二核ルテニウム錯体の合成と反応、森山太一・遠藤聡・田邊資明・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(9) ルテニウム触媒によるプロパルギルアルコールと2-ナフトールとの不斉[3+3]環化付加反応、金尾啓一郎・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(10) モリブデン-鉄錯体を用いた触媒的窒素分子-シリルアミン変換反応に関する理論的研究、田中宏昌・笹田瑛・向野智久・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭・吉澤一成、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(11) フェロセニルジホスフィン配位子をもつモリブデン錯体を用いた窒素分子変換反応に関する理論的研究、笹田瑛・田中宏昌・笹田瑛・向野智久・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭・吉澤一成、日本化学会第90春季年会（大阪）、2010年3月26日～29日

(12) 複数の金属を利用した革新的分子変換反応の開発を目指して、西林仁昭、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「実在系の理論化学」成果発表会、2010年3月6日

(13) 複数の金属を利用した革新的分子変換反応の開発を目指して、西林仁昭、材料化学専攻セミナー (京都大学大学院工学研究科材料化学専攻主催)、2009年12月11日

(14) 複数の金属を利用した革新的分子変換反応の開発を目指して、西林仁昭、化学と生命の架け橋 (東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻主催)、2009年9月28日

(15) 錯体化学的アプローチによる温和な反応条件下での窒素固定法の開発、西林仁昭、第59回錯体化学討論会 (長崎)、2009年9月25日～27日

(16) PNP配位子を持つモリブデン窒素錯体の合成と反応性、荒芝和也・三宅由寛・西林仁昭、第59回錯体化学討論会 (長崎)、2009年9月25日～27日

(17) ルテニウム-アレニリデン錯体の新しい発生活の開発: エチニルシクロプロパンとアルデヒド及びアルジミンとの触媒的[3+3]環化付加反応、森山太一・遠藤聡・三宅由寛・西林仁昭、第59回錯体化学討論会 (長崎)、2009年9月25日～27日

(18) ジルコニウム-ルテニウム異種金属二核錯体の合成と反応性、宮崎貴国・田邊資明・荒芝和也・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、第59回錯体化学討論会 (長崎)、2009年9月25日～27日

(19) モリブデン-鉄錯体を用いた触媒的窒素分子変換反応に関する理論的研究、田中宏晶・笹田瑛・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭・吉澤一成、第59回錯体化学討論会 (長崎)、2009年9月25日～27日

(20) モリブデン-鉄錯体を用いた触媒的窒素分子変換反応に関する理論的研究、田中宏晶・笹田瑛・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭・吉澤一成、第3回分子科学討論会 (名古屋)、2009年9月21日～24日

(21) ジルコニウム-ルテニウム異種金属二核錯体の合成と反応性、宮崎貴国・田邊資明・荒芝和也・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、第56回有機金属化学討論会 (京都)、2009年9月9日～11日

(22) ルテニウム-アレニリデン錯体を鍵中間体とするエチニルシクロプロパンとアルデヒド及びアルジミンとの触媒的[3+3]環化付加反応、森山太一・遠藤聡・三宅由寛・西林仁昭、第56回有機金属化学討論会 (京都)、2009年9月9日～11日

(23) オスミウム骨格を基盤とするジホスフィン配位子の合成と光触媒的水素発生反応への応用、中島一成・佐々木晃逸・三宅由寛・西林仁昭、第56回有機金属化学討論会 (京都)、2009年9月9日～11日

(24) Enantioselective Ring-Opening Reactions of Ethynyl Epoxides via Copper-Allenylidene Intermediates, G. Hattori, A. Yoshida, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The 15th International Symposium on Organometallic Chemistry Directed toward Organic Synthesis (UK), July 26-30, 2009.

(25) Ruthenium-Catalyzed Enantioselective Intramolecular Propargylation of Thiophenes with Propargylic Alcohols, K. Kanao, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The 15th International Symposium on Organometallic Chemistry Directed toward

Organic Synthesis (UK), July 26-30, 2009.

( 2 6 ) DFT Study on the Mechanism of the Copper-Catalyzed Propargylic Substitution Reactions, K. Sakata, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The 15th International Symposium on Organometallic Chemistry Directed toward Organic Synthesis (UK), July 26-30, 2009.

( 2 7 ) Photocatalytic Production of Dihydrogen Using Diphosphine Ligands Based on Osmium(II) Bis(terpyridyl) Moiety, K. Nakajima, K. Sasaki, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The 18th International Symposium on Photochemistry and Photophysics of Coordination Compounds (Sapporo), July 4-9, 2009.

( 2 8 ) Synthesis of Diphosphine Ligands Bearing Osmium(II) Bis(terpyridyl) Moiety as a Light Harvesting Unit, K. Sasaki, K. Nakajima, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The 18th International Symposium on Photochemistry and Photophysics of Coordination Compounds (Sapporo), July 4-9, 2009.

## 2008年度

(1) 銅アレニリデン錯体を鍵中間体とする不斉分子変換反応、服部岳・吉田晶子・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(2) 銅アレニリデン錯体を鍵中間体とする不斉三員環開裂反応、吉田晶子・服部岳・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(3) 銅触媒を用いたプロパルギル位置換反応の反応機構に関する量子化学的研究、坂田健・服部岳・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(4) ピンサー配位子を持つモリブデン窒素錯体の合成と構造、荒芝和也・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(5) ルテニウム-アレニリデン錯体を鍵中間体とするエチニルシクロプロパンとカルボニル化合物との触媒的[3+2]環化付加反応、遠藤聡・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(6) ルテニウム-ビニリデン錯体を經由する1, 5-エンインの触媒的環化異性化反応、深水浩二・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(7) ビス（テルピリジル）オスミウム骨格を基盤とする光捕集性二座ホスフィン配位子の合成、佐々木晃逸・中嶋一成・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(8) ビス（テルピリジル）オスミウム骨格を基盤とする光捕集性二座ホスフィン配位子を用いた触媒的水素発生反応、中嶋一成・佐々木晃逸・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第89春季年会（東京）、2009年3月27日～30日

(9) 超分子構造の特性を有する触媒を用いた新規分子変換反応の開発（依頼講演）、西林仁昭、高分子学会 超分子研究会（東京）、2009年1月20日

(10) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, The University of Tokyo-Yonsei University Joint Symposium (Tokyo), January 19-21, 2009.

(11) Ruthenium-Catalyzed Asymmetric Intramolecular Propargylation of Thiophenes, K. Kanao, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The University of Tokyo-Yonsei University Joint Symposium (Tokyo), January 19-21, 2009.

(12) ルテニウム触媒によるアレニリデン-エン反応を經由するエナンチオ選択的な炭素-炭素結合生成反応を利用した光学活性なヘテロ環合成、深水浩二・三宅由寛・西林仁昭、第94回有機合成シンポジウム（東京）、2008年11月7日～8日

(13) 銅触媒によるエナンチオ選択的なプロパルギル位アミノ化反応、服部岳・松澤啓史・三宅由寛・西林仁昭、第55回有機金属化学討論会（大阪）、2008年9月28日～30日

(14) ルテニウム触媒によるアレニリデン-エン反応を經由するエナンチオ選択的な炭素

-炭素結合生成反応を利用した光学活性なヘテロ環合成、深水浩二・三宅由寛・西林仁昭、第55回有機金属化学討論会（大阪）、2008年9月28日～30日

(15) メタロセン型二座ホスフィンを補助配位子とするモリブデンおよびタングステン-窒素錯体を用いた窒素分子のシリルアミンへの触媒的変換反応、結城雅弘・荒芝和也・緑川達也・三宅由寛・西林仁昭、第55回有機金属化学討論会（大阪）、2008年9月28日～30日

(16) 架橋カルコゲン二核ルテニウム金属錯体を用いた触媒的求核置換反応に対する量子化学的アプローチ、小林啓之・中嶋隆人・西林仁昭・平尾公彦、第2回分子科学討論会（福岡）、2008年9月24日～27日

(17) ホスフィド架橋二核ルテニウム錯体の合成及び反応性、遠藤聡・結城雅弘・田辺資明・三宅由寛・西林仁昭、第58回錯体化学討論会（金沢）、2008年9月20日～22日

(18) ビステルピリジルルテニウム及びオスミウム骨格を基盤とする二座ホスフィン配位子の合成と反応性、中島一成・齊藤隆一・三宅由寛・西林仁昭、第58回錯体化学討論会（金沢）、2008年9月20日～22日

(19) ビス(シクロペンタジエニル)リチウム構造を有する亜鉛-ホスフィン錯体の合成と構造、結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、第58回錯体化学討論会（金沢）、2008年9月20日～22日

(20) ルテニウム触媒を用いたヘテロ芳香族化合物の不斉プロパルギル化反応、金尾啓一郎・松澤啓史・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第2回関東支部大会（群馬）、2008年9月18日～19日

(21) ビステルピリジルルテニウム及びオスミウム骨格を基盤とする二座ホスフィン配位子の合成と反応性、中島一成・齊藤隆一・三宅由寛・西林仁昭、第21回配位光化合物の光化学討論会（東京）、2008年8月5日～7日

(22) Ruthenium-Catalyzed Vinylic Substitution Reactions with Nucleophiles via Butatrienylidene Intermediates, Y. Yamauchi, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The 23th International Conference on Organometallic Chemistry (France), July 13-18, 2008.

(23) Copper-Catalyzed Asymmetric Propargylic Substitution Reaction of Propargylic Acetates with Amines, G. Hattori, H. Matsuzawa, Y. Miyake, Y. Nishibayashi, The 23th International Conference on Organometallic Chemistry (France), July 13-18, 2008.

(24) Synthesis and Reactivities of Phosphido-Bridged Diruthenium Complexes, Y. Miyake, S. Endo, Y. Nishibayashi, The 23th International Conference on Organometallic Chemistry (France), July 13-18, 2008.

(25) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, International Symposium on Creation and Control of Advanced Selective Catalysis as the Celebration of the 50<sup>th</sup> Anniversary of the Catalysis Society of Japan (ICC 14<sup>th</sup> Pre-Symposium) (Kyoto), July 8-12, 2008.



( 2 6 ) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, Visiting Scholar Award of National Tsing Hua University (National Taiwan University, Taiwan), June 13, 2008.

( 2 7 ) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, Visiting Scholar Award of National Tsing Hua University (Academia Sinica, Taiwan), June 12, 2008.

( 2 8 ) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, Visiting Scholar Award of National Tsing Hua University (National Tsing Hua University, Taiwan), June 11, 2008.

## 2007年度

(1) メタロセン型二座ホスフィンを補助配位子とするモリブデン-窒素錯体の合成と反応性、結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(2) ビステルピリジルルテニウム及びオスミウム錯体を含む二座ホスフィン配位子の合成と反応性、齋藤隆一・中島一成・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(3) ハロゲン置換したチオラート架橋二核ルテニウム錯体の合成と反応性、田辺資明・金尾啓一郎・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(4) モノホスフィド架橋二核ルテニウム錯体の合成および反応性、遠藤聡・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(5) 異種ヘテロ原子架橋二核ルテニウム錯体の合成および反応性、遠藤聡・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(6) 光学活性硫黄架橋二核ルテニウム錯体を触媒とした不斉分子内アレニリデン-エン反応の開発、深水浩二・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(7) ルテニウム錯体を用いた3-ブチン-1, 2-ジオールからの分子内環化反応によるフラン環合成、矢田行人・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(8) ルテニウム触媒を用いたオレフィン類のプロパルギル化反応、山内禎啓・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(9) ルテニウム触媒による不斉分子内芳香族プロパルギル化反応、金尾啓一郎・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(10) 銅触媒によるプロパルギルエステルとアミンを用いた不斉プロパルギル位アミノ化反応、服部岳・松澤啓史・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(11) 光学活性な*N, N, N', N'*-テトラアリーール-1, 1'-ビナフチル-2, 2'-ジアミンの合成とその不斉合成反応への応用、松澤啓史・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第88春季年会（東京）、2008年3月26日～30日

(12) 硫黄架橋二核ルテニウム錯体を用いた特異な触媒反応の開発、西林仁昭、科学研究費特定領域研究「実在系の分子理論」成果報告会（岡山）、2008年3月15日～16日

(13) Copper-Catalyzed Asymmetric Propargylic Amination of Propargylic Esters with Amines, G. Hattori, H. Matsuzawa, Y. Mikaye, Y. Nishibayashi, 1<sup>st</sup> Global COE

International Symposium on Chemistry Innovation through Cooperation of Science and Engineering (The University of Tokyo, Tokyo), February 15, 2008.

(14) Ruthenium-Catalyzed Asymmetric Propargylation of Aromatic Compounds, K. Kanao, H. Matsuzawa, Y. Mikaye, Y. Nishibayashi, 1<sup>st</sup> Global COE International Symposium on Chemistry Innovation through Cooperation of Science and Engineering (The University of Tokyo, Tokyo), February 15, 2008.

(15) 複数の遷移金属を用いた新しい反応の開発を目指して (招待講演)、西林仁昭、グローバルCOE有機若手ワークショップ (京都大学グローバルCOEプログラム「物質科学の新基盤構築と次世代育成国際拠点」主催、京都)、2008年2月7日～8日

(16) 複数の遷移金属を用いた新しい反応の開発を目指して (招待講演)、西林仁昭、フロンティア研究会—構造と機能— (名古屋大学グローバルCOEプログラム「分子性機能物質化学の国際教育拠点形成」主催、名古屋)、2008年1月11日～12日

(17) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, 4th OUS Hightech International Symposium (Science University of Okayama, Okayama), November 30, 2007.

(18) 複核錯体の特性を用いる触媒反応の開発 (招待講演)、西林仁昭、平成19年度後期有機合成化学講習会 (有機合成化学協会主催、東京)、2007年11月21日～22日

(19) クムレニリデン錯体を鍵中間体とする新規触媒反応の開発、山内禎啓・結城雅弘・三宅由寛・稲田陽一・植村榮・西林仁昭、第54回有機金属化学討論会 (広島)、2007年10月27日～28日

(20) ジホスフィン架橋二核ルテニウム錯体の合成と反応性、三宅由寛・野間口洋平・結城雅弘・西林仁昭、第54回有機金属化学討論会 (広島)、2007年10月27日～28日

(21) ロタキサン骨格を基盤とする新規不斉配位子の設計・合成と不斉合成反応への応用、服部岳・堀徹治・三宅由寛・西林仁昭、第54回有機金属化学討論会 (広島)、2007年10月27日～28日

(22) サンドイッチ型配位子を二座ホスフィン補助配位子とするタングステン—窒素錯体の反応性と電子化学的性質、結城雅弘・緑川達也・三宅由寛・西林仁昭、第57回錯体化学討論会 (名古屋)、2007年9月25日～27日

(23) 複核錯体の特性を用いる触媒反応の開発 (依頼講演)、西林仁昭、日本化学会第1回関東支部大会 (東京)、2007年9月27日～28日

(24) 複数の遷移金属を用いた新しい反応の開発を目指して (依頼講演)、西林仁昭、化学系学協会東北大会特別企画有機化学コロキウム (山形)、2007年9月22日～23日

(25) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates, Y. Nishibayashi, 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (Nara), August 2-6, 2007.

(26) Synthesis and Reactivity of Diphosphine-Bridged Diruthenium Complexes, Y. Miyake, Y. Nomaguchi, M. Yuki, Y. Nishibayashi, 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (Nara), August 2-6, 2007.

(27) 複数の金属を用いた新規触媒反応の開発 (招待講演)、西林仁昭、宇部興産学術振興財団受賞記念講演 (宇部興産株式会社主催、宇部)、2007年5月29日

## 2006年度

(1) 擬ロタキサン骨格を基盤とする新規な不斉配位子の設計と合成、堀徹治・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第87春季年会(大阪)、2007年3月25日～28日

(2) サンドイッチ型錯体を二座ホスフィン配位子とするタングステン-窒素錯体の合成と反応性、結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第87春季年会(大阪)、2007年3月25日～28日

(3) ルテニウム触媒を用いたエチニルケトンとアルコールとの反応:ブタ-1,2,3-トリエニリデン錯体を鍵中間体として経由する新規触媒反応、山内禎啓・三宅由寛・稲田陽一・植村榮・西林仁昭、日本化学会第87春季年会(大阪)、2007年3月25日～28日

(4) ルテニウム錯体を用いた芳香族化合物の不斉プロパルギル化反応、松澤啓史・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第87春季年会(大阪)、2007年3月25日～28日

(5) ルテニウム触媒による連続反応:ラセミ体アルコールの動的速度論的光学分割、島田雄介・三宅由寛・松澤啓史・西林仁昭、日本化学会第87春季年会、2007年3月25日～28日

(6) 硫黄架橋二核ルテニウム錯体のアレニリデン-エン反応に関する量子化学的研究、坂田健・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第87春季年会(大阪)、2007年3月25日～28日

(7) リン架橋二核ルテニウム錯体の合成および反応性、三宅由寛・野間口洋平・結城雅弘・西林仁昭、日本化学会第87春季年会(大阪)、2007年3月25日～28日

(8) ルテノセニルジホスフィン配位子とするタングステン-窒素錯体の合成と反応性、緑川達也・結城雅弘・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第87春季年会(大阪)、2007年3月25日～28日

(9) 複数の金属を用いた新規分子変換反応の開発、西林仁昭、科学研究費特定領域研究「炭素資源の高度分子変換」第2回公開シンポジウム(東京)、2007年1月12日～13日

(10) カルコゲン架橋二核ルテニウム錯体を用いた新規触媒反応の開発(依頼講演)、西林仁昭、有機合成ミニシンポジウム(有機合成化学協会関東支部主催、神奈川)、2006年11月18日

(11) フェロセニルジホスフィンを補助配位子とするモリブデン及びタングステン-窒素錯体の合成と反応性、結城雅弘・脇地一生・西林仁昭・干鯛真信、第56回錯体化学討論会(広島)、2006年9月16日～18日

(12) ルテニウム触媒を用いたプロパルギルアルコールとアニリンとの反応:三置換共役エンイン化合物の新規合成法の開発、山内禎啓・小野寺玄・三宅由寛・西林仁昭、第53回有機金属化学討論会(大阪)、2006年9月8日～9日

(13) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, The 22th International Conference on Organometallic Chemistry (Spain), July 23-28, 2006.

## 2005年度

(1) ルイス塩基をもつルテニウム錯体を触媒とする不斉プロパルギル位置換反応、松澤啓史・三宅由寛・西林仁昭、日本化学会第86春季年会（千葉）、2006年3月27日～30日

(2) ルテニウム触媒によるプロパルギルアルコールの選択的プロパルギル位還元反応、篠田暁・三宅由寛・佐藤光史・西林仁昭、日本化学会第86春季年会（千葉）、2006年3月27日～30日

(3) イリジウムおよびルテニウム錯体による触媒的連続反応：アルコールを用いたケトンの $\alpha$ 位アルキル化型不斉還元反応、小野寺玄・西林仁昭・植村榮、日本化学会第86春季年会（千葉）、2006年3月27日～30日

(4) Ruthenium-Catalyzed Novel Reactions via Allenylidene Intermediates (Invited Lecture), Y. Nishibayashi, The 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Hawaii, USA), December 15-20, 2005.

(5) ジカチオン性硫黄架橋二核ルテニウム錯体の触媒活性、小野寺玄・松本英之・西林仁昭・植村榮、第52回有機金属化学討論会（京都）、2005年9月15日～16日

(6) ルテニウム触媒による不斉プロパルギル位置換反応、稲田陽一・西林仁昭・植村榮、第52回有機金属化学討論会（京都）、2005年9月15日～16日

(7) Ruthenium-Catalyzed Reductive Coupling Reaction of Propargylic Alcohols, G. Onodera, Y. Nishibayashi, S. Uemura, 13th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (Geneva, Switzerland), July 17-21, 2005.